「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。掲載料は無料です。

6 JUN

展示関連企画：はじめてのコンポスト講座
6月 1日(日) 10:00▶12:00 有料 要申込
※申込開始：5/6（火）10：00
講　師　tsugi コンポスト部（LFC コンポストアドバイザー）
場所 せんだい 3.11 メモリアル交流館　定員 15 名程度（先着）
主催者 せんだい 3.11 メモリアル交流館　問合先 TEL 022-390-9022

テーマ別介護講座「高齢者の権利を守る成年後見制度」
6月 3日(火) 13:30▶15:30 無料 要申込
講　師　及川繁氏（司法書士）　※申込開始：5/7（水）9：00
場所 仙台市シルバーセンター臨時事務所 研修室　定員 50 名（先着）
主催者 （公財）仙台市健康福祉事業団　問合先 TEL 022-215-3711

展示関連企画：市バスに乗って「深沼ビーチクリーン」を体験！
6月 8日(日) 9:30▶13:00 無料 要申込
※申込開始：5/6（火）10：00、要バス代（往復）
場所 せんだい 3.11 メモリアル交流館　定員 10 名（先着）
主催者 せんだい 3.11 メモリアル交流館　問合先 TEL 022-390-9022

仙台文学館ゼミナール 2025：小池光短歌講座　第 172 回
6月14日(土) 13:30▶15:40 有料 申込不要
講　師　小池光氏（歌人）　※申込締切：5/13（火）
場所 仙台文学館　定員 70 名
主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

前期基礎講座　第 3 回「吉野作造の文章を読んでみよう」
6月14日(土) 14:00▶16:00 無料 要申込
講　師　氏家仁氏（吉野作造記念館館長）
場所 吉野作造記念館　定員 30 名
主催者 吉野作造記念館　問合先 TEL 0229-23-7100

令和 7 年度　館長講座　第 3 回
6月28日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込
講　師　東北歴史博物館館長
場所 東北歴史博物館 3 階講堂　定員 280 名（先着）
主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106

ミニ講座②「足元にみるくらしの変化」
6月29日(日) 14:00▶15:00 無料(要チケ)　申込不要
講　師　仙台市歴史民俗資料館学芸員
場所 仙台市歴史民俗資料館
主催者 仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956

介護講座「認知症を理解する」
6月30日(月) 10:00▶14:30 有料 要申込
※申込開始：5/7（水）9：00
講　師　西川菜央氏（仙台西多賀病院 認知症看護認定看護師）
　　新沼清孝氏（特別養護老人ホーム青葉ふるさと村施設長）
場所 仙台市シルバーセンター臨時事務所 研修室　定員 50 名（先着）
主催者 （公財）仙台市健康福祉事業団　問合先 TEL 022-215-3711

7 JUL

仙台文学館ゼミナール 2025：小池光短歌講座　第 173 回
7月12日(土) 13:30▶15:40 有料 要申込
講　師　小池光氏（歌人）　※申込締切：6/17（火）
場所 仙台文学館　定員 70 名
主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

前期基礎講座　第 4 回「吉野作造の文章を読んでみよう」
7月12日(土) 14:00▶16:00 無料 要申込
講　師　氏家仁氏（吉野作造記念館館長）
場所 吉野作造記念館　定員 30 名
主催者 吉野作造記念館　問合先 TEL 0229-23-7100

第69回 名著への旅

『タイムバインド』
A.R. ホックシールド著
（坂口緑・中野聡子・両角道代訳）
筑摩書房
（2023年6月10日第一刷発行）

ワーク・ライフ・バランスはなぜ実現されないのか？この問いに、綿密なフィールドワークをもとに、特に企業や労働者の「時間拘束」の観点から迫るのが本書の趣旨である。なお著者のホックシールドは「感情労働」という概念を提唱したことで知られる。

本書は、「時間」という限られた資源が職場に費やされる構造に迫る。対象となる「アメルコ」社は時短勤務や育休などのファミリーフレンドリーな制度を導入する一方で、労働者は職場にいたがる。職場は理知的で予測可能性が高いがゆえに居心地が良いが、家庭は予測不可能なことが起こり、努力してもそれが評価に直結しない。そのため、職場は家庭からの「避難港」となり、他方で家庭はかつての職場のように時間的効率の合理化が求められる場となる。職場と家庭の逆転現象を、本書は明らかにする。

「時は金なり」というが、その貴重な「時」を巡る労働環境と家庭環境の内部でのせめぎ合いこそが現代的課題であることを著者は指摘する。それゆえ、私的な時間を取り戻す「時間運動」が求められている。（寺）

参加体験記募集中！

読者の皆様が参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。
掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈！
ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント！
※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。
「まなびのめ」編集部へはがき、FAX、E-mail、Web 版投稿フォームよりお送りください。

第67号 まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第 67 号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

図書カード 1,000円　図書カード 1,000円　図書カード 1,000円分

Q.1　高橋先生が研究してこられた、気候変動の規則性や特性に関係すると思われる前線が発生しやすい場所のことを何という？　答え「前線帯」
Q.2　地球上の水の循環だけでなく、水資源や社会や経済活動にまで考えが及ぶ水に関する学問は？　答え「水文学」

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から**抽選で3名様に図書カードが当たります**ので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先 / 問い合わせ先
〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付　電話受付時間 10:00～16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第68号／発行日2025年4月5日
企画・編集　「まなびのめ」編集部／発行　笹氣出版印刷株式会社
オブザーバー：寺田征也（明星大学）　協力：株式会社市瀬　有限会社阿部正志製本

ⓒ笹氣出版印刷株式会社　無断で複写、複製、転載することを禁じます。
この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙はFSC®認証材および管理原材料から作られている紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。
GREEN PRINTING JFPI P-B10004　FSC MIX Paper from responsible sources FSC® C005944　VEGETABLE OIL INK　UD FONT

ご自由にお持ち帰りください。
TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付クイズあります 詳しくは中面へ

学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 2025. 4　第68号

学びの庭におじゃまします　お金

地域の経済活性化にブロックチェーンを

東北大学 データ駆動科学・AI教育研究センター 准教授
（情報セキュリティ）
酒井　正夫 先生

地域のつながりと経済活性化にグッドマネーを

宮城大学 事業構想学群 准教授
（コミュニティ経済・地域通貨論・進化経済学）
宮﨑　義久 先生

- これからの主な「学び」イベント 39件 掲載！（行ってみよう！「学び」の場所へ）
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『タイムバインド』（A.R. ホックシールド）
- Voice Park

ISO 14001 JQA-EM4031
Web版 随時更新！ まなびのめ http://manabinome.com/
発行／笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

有料 無料　無料(要チケ)　要申込 申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。
※ 無料(要チケ) は別途入場料等が必要。

詳細は **Web 版に掲載**しております。http://manabinome.com/

ここに掲載する情報は、主催者である各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

定期開催

トワイライトサロン「土佐誠の宇宙が身近になる話」
毎週土曜日 17:00▶17:45 無料 申込不要
講　師　土佐誠氏（仙台市天文台名誉台長）
場所 仙台市天文台オープンスペース
主催者 仙台市天文台　問合先 TEL 022-391-1300

展示

東日本大震災文庫展 ―記憶を 記録に 未来へ―
～6月 1日(日) 9:00▶17:00 無料 申込不要
※休館日：月曜日、宮城県図書館の臨時休館日
場所 宮城県図書館 2 階展示室
主催者 宮城県図書館　問合先 TEL 022-377-8498

ミニ企画展「東北の縄文遺跡 ―東北の縄文遺跡　福島県本宮市・高木遺跡―」
～6月 8日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要
※入館は 16:15 まで、休館日：月曜日、毎月第 4 木曜日（休日を除く）
場所 仙台市縄文の森広場
主催者 仙台市縄文の森広場　問合先 TEL 022-307-5665

2025 年 春の常設展
～6月15日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要
※入館は 16:15 まで、休館日：月曜日（4/28、5/5 除く）、5/7（水）
場所 仙台市博物館
主催者 仙台市博物館　問合先 TEL 022-225-3074

第 26 回白鳥省吾賞 受賞作品展
～6月29日(日) 9:00▶16:30 有料 申込不要
※休館日：月曜日、祝日（月曜日の場合は翌日）
場所 白鳥省吾記念館
主催者 白鳥省吾記念館　問合先 TEL 0228-23-7967

企画展「南津島の田植踊～未来へつなぐバトン」展
～6月30日(月) 9:30▶17:00 有料 申込不要
※入館は 16:30 まで、休館日：日曜日、祝日、第 1・3 土曜日、大学が定める休業日
場所 東北学院大学博物館
主催者 東北学院大学博物館　問合先 TEL 022-264-6920

毛利コレクション特集展「仙台藩の鋳銭場」
～7月 6日(日) 9:00▶17:00 有料 申込不要
※入館は 16:30 まで、休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）
場所 石巻市博物館常設展示室　毛利コレクション展示室
主催者 石巻市博物館　問合先 TEL 0225-98-4831

企画展 3.11 現場の事実×心の真実『生活の、あとと、先 ～「ごみ」と災害～』
～7月31日(木) 10:00▶17:00 無料 申込不要
※休館日：月曜日（祝日除く）、祝日の翌日（土・日・祝日を除く）
場所 せんだい 3.11 メモリアル交流館　2 階展示室
主催者 せんだい 3.11 メモリアル交流館　問合先 TEL 022-390-9022

春季特別展「QuizKnock と巡る江戸東京博物館展」
4月19日(土)～6月22日(日) 9:30▶17:00 有料 要申込
※発券は 16：30 まで、休館日：月曜日（4/28、5/5 除く）、5/7（水）
場所 東北歴史博物館
主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106

学びの庭におじゃまします

近年、「暗号資産」または「仮想通貨」と呼ばれるデジタルのお金についてみなさんも耳にしたことがあるかと思います。その暗号資産などを実現するブロックチェーンについて研究されている酒井先生に、暗号資産にも利用されるセキュリティの面からブロックチェーンを利用した取り組みについて伺いました。

地域の経済活性化にブロックチェーンを

暗号資産はブロックチェーンの機能のごく一部

私の所属先は、本学の学生にデータ・AI に関する情報教育を行い、またそれについて研究を行うセンターです。「データ基盤・セキュリティ教育研究部門」の部門長を務め、新入生や工学系の学生を対象とする授業も担当しています。大学院の情報科学研究科にある、情報セキュリティ分野の研究室にも籍を置き、医工学分野の研究にも取り組んできました。

私の今の主な研究テーマは「ブロックチェーン」です。ブロックチェーンと聞くと、暗号資産や仮想通貨、そしてビットコインを連想する方が多いでしょう。しかしこれらはブロックチェーンの機能の、ごく一部に過ぎません。

今回のテーマは「お金」ということですが、私のお金に対する関心は、暗号資産を含めてもせいぜい世間並みです。「ないよりはあった方がいい」とか「家を買ったら思っていたより高くて驚いたけど、家族が喜んでくれたからまあいいか」という程度で、今これをお読みの皆さんと、それほど違わないのではないでしょうか。

お金が人を幸せにし、社会を良くするのであれば、それで良いと思います。同じように、ブロックチェーンを人のため、社会のために使うにはどうすればいいか、というのが私の主な関心事です。ブロックチェーンについて正確な知識を得たい方はご自身でお調べいただくことにして、ここではイメージのしやすさを優先して説明します。

ブロックチェーンはインターネット上で、データを非中央集権的に共同管理するための技術です。インターネットは世界中のコンピュータ（ノード）同士をつないだ通信網であり、インターネット全体を中央集権的に管理するリーダ的ノードは存在しません。また、全てのノードが信頼できるわけではなく、他のノードに偽りのデータを送信したり、他ノードの保持するデータを改ざん・消去したりする不正ノードも存在します。さらに、インターネット上では一人で複数のノードを簡単に作成できるため、単純な多数決による合意形成手段が機能しません。そのように不正ノードが存在し、参加者の合意形成も困難なインターネットにおいて、大多数の正しく動作するノード群同士がデータを安全に分散保持して同期し続けることは、従来は実現困難と考えられてきました。そのため、ブロックチェーンの出現以前は、特定のノード（サーバ）が中央集権的にデータを管理する方式が採用されていました。しかし、この方式の場合、サーバ管理者はデータを恣意的に改ざん可能であり、また、サーバ管理者がそのサーバが停止した場合にインターネット上からデータが完全に消失する問題がありました。

しかし、ブロックチェーンが登場したことで、インターネット上でデータを安全に共同管理することが可能になりました。特定のサーバに頼らないため、ブロックチェーン上のデータを改ざん・消去することは事実上不可能です。また、インターネットのユーザは誰でも簡単にそのデータの正しさを検証できるのです。このようにブロックチェーンは、従来は実現困難と考えられていたことを可能にした画期的な技術であり、インターネット級の大発明とも言われています。

東北大学　データ駆動科学・AI 教育研究センター　准教授
専門＝情報セキュリティ

酒井　正夫 先生

《プロフィール》（さかい・まさお）1974 年富山県生まれ。富山工業高等専門学校 電気工学科卒業。東北大学大学院 工学研究科 博士課程後期 3 年の課程修了。博士（工学）。東北大学・大学院にて助手、講師を務め、東北大学教育情報基盤センター・大学院情報科学研究科 准教授を経て、2019 年より現職。ゼロワ株式会社取締役 CTO。

画期的な研究対象に出会うまで

こうしたブロックチェーンの機能を、決済手段に特化させたのが暗号資産であり、その代表格がビットコインです。インターネットユーザは誰でも、個人情報を登録しなくても口座にあたるアドレスを作ることができ、ブロックチェーン上で発行される貨幣である「コイン」を保有し、別のアカウントに移動させることができます。ビットコインは投機の対象として爆発的に普及してしまったため、ブロックチェーンに対する一般の認識をゆがめてしまった感があるのは残念です。また、コインに高額な市場価値が付いてしまったために、コインが奪われるなどの事件が起きていることは、皆さんもご存じの通りです。さらに、現在では利用者保護のために、その取り扱いには厳しい規制が設けられ、自由な活用も制限されています。

私の今の中心的な研究テーマは、このブロックチェーンを使って、個人情報を守りながら、個人間で安全にデータをやり取りする技術についてです。とはいうものの、私は学びの道を主体的に歩んできたとは言えません。中学の時は研究者になるどころか大学に行く気持ちさえなく、工業高等専門学校に進学して卒業後は就職するつもりでした。その学科選びも、中学の先生に「君の成績なら一番難しい電気工学科に入れるから」と勝手に決められていました。その後、就職せずに東北大学の工学部に編入したのも「大学を出てほしい」という両親の説得があったからです。「どうせなら大学という場所をとことん見てみよう！」と大学院にも進学しましたが、最初に選んだ研究室が実験系でハードだったため、逃げ出すように「楽だよ」と聞いていたシステム制御の研究室に途中から移りました（笑）。

移った研究室では人工知能の研究に取り組みました。幸い肌が合ったようで、博士後期課程にも進学したのですが、博士論文の執筆でとても苦しむことになりました（笑）。辛うじて博士号の学位は取得できたものの、その苦しんだ経験から「自分は研究職には向いていない」と思いました。修了後は、東北大学の新入学生の情報教育を担当するセンターに教員として就職し、また、大学院情報科学研究科の情報セキュリティ分野の研究室にも所属することになりました。その研究室は数学の才能に溢れる人たちの集まりで、数学を道具としてしか扱ってこなかった自分には別世界でした。「やっぱり自分は向いていない。早々に転職しよう」と思いながらも、与えられた大学での情報システムや教育関係の仕事をこなし、自分の興味を持てる研究テーマを模索し続けてきたというのが実感です。

そして出会ったのが、研究対象としてのブロックチェーンでした。ブロックチェーンが発表されたのは 2008 年ですが、私が自身の研究で意識したのは 2017 年です。その頃私はプライバシ保護とデータ利活用の両立に関する研究に取り組んでおり、従来の中央集権型システムではその両立が達成困難と感じていました。そこに、その両立を可能にする技術としてブロックチェーンの存在を知ったのです。ブロックチェーンは画期的な発明ですが、そのアイデアは比較的に単純であり、また、その実現方法も基本的な暗号技術を組み合わせで、数学が必ずしも得意でない私でも理解できるものだったことも衝撃的でした。その時は「なぜ自分が先に考えつけなかったのか」とまで思ったものです。世の中が仮想通貨だ暗号資産だと騒いでも全く氣にならずに研究に熱中し、共同研究者らと多様な応用技術を開発し、その社会実装に取り組むために特許も取得しました。

ブロックチェーンで商店街を活性化

本学は研究成果に基づく起業の支援に力を入れており、我々も 2019 年に会社を立ち上げました。代表者には学外のエンジニアを招聘し、私は取締役 CTO（最高技術責任者）として参加しています。大学の研究者だけでは、研究成果の社会実装を具体化することは現実的ではありません。しかし、その役割を担う会社を設立し、また、継続的な実証実験を通して地元の商店街や活性化に取り組む方々ともつながったことで、我々の研究成果を地域経済の活性化に役立てる道筋が見えてきました。

仙台市中心部の商店街には毎日たくさんの人が訪れますが、通過するだけの人、買い物を楽しむ人、仙台ならではの飲食店を探している観光客など様々です。もしもあるエリアに今いる人々の行動履歴を把握し、その一人ひとりに最適化した集客や販促活動を仕掛けることができれば、大きな効果が期待できるはずです。現在では、多くの人々がスマートフォンを保持するため、スマートフォンが収集・蓄積する様々な個人データとアプリを活用すれば、こうした取り組みは実現可能です。実際、一部の大手インターネットサービス事業者は、自社サービスの利用者の個人データを活用した最適な広告配信や商品提案により、莫大な収益をあげています。しかし、地域の商店街が、地域アプリを活用して、そのような個人データ活用を行うことは現実的ではありません。地域アプリが、アプリ利用者の個人データを大量に収集・保全するには膨大なコストが必要であり、また、そのような個人データ収集と活用にアプリ利用者からの承諾を得ることも難しいためです。例えば商店街が実施する地域アプリを活用したスタンプラリーイベントでは、地域に分散配置された QR コードを参加者がアプリで読み取ることでスタンプを獲得します。イベント開催中、アプリ運営者は、全参加者のスタンプの獲得履歴を収集・保全する必要があり、参加者が多数の場合には大きなコストが必要です。一方で、せっかく収集された個々の参加者のスタンプ獲得履歴（獲得した日時と場所のリスト）はマーケティングに役立つデータですが、目的外利用となるため活用することはできません。通常はイベント終了後に活用されることなく削除されています。

我々の研究成果は、地域アプリとブロックチェーン技術を組み合わせることで、個々のアプリ利用者の個人情報（個人を特定できるデータ）をスマートフォンの外に持ち出すことなく、第三者によって活用することを可能にします。具体的には、アプリ利用者の行動履歴は、匿名化された上でブロックチェーン上に永続的に記録され、誰もがその行動履歴に紐づくアプリ利用者に対してアプローチすることが可能になります。アプリ運営者は利用者の個人データの収集・保全のためのコストを負担する必要がなく、商店街はアプリ利用者の行動履歴に基づいた効果的なセールのお知らせやクーポンの発行が可能になり、また、アプリ利用者にとっても自身のプライバシを損なうことなく、自身にメリットのあるアプローチ（例えば割引率の大きなクーポン発行など）のみを受けることが可能となるメリットがあります。

この実現のために、まずは実績作りです。2022 年度には仙台市の「市民協働事業提案制度」を使って、中心部商店街のにぎわいづくりを目指す一般社団法人「まちくる仙台」、仙台市、私たちの会社、東北大学の四者による、地域の人流データを低コスト・低プライバシリスクで収集する実証実験を行うことができました。その実績を評価され、2024 年度には地域アプリとブロックチェーン連携の実証実験のための研究助成金を獲得できました。もし、それで成果を上げることができれば、仙台市が地域アプリとブロックチェーンの組み合わせによる地域活性化の分野で、全国の先頭に立つことも可能です。私も「2025 年度が山場」というつもりで頑張っていますので、市民の皆さんにも、これから行う予定の私たちの次の実証実験に、ぜひご協力をお願いいたします。

（取材＝2025 年 3 月 5 日／東北大学川内キャンパス マルチメディア教育研究棟 5 階 M508 図書室にて）

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1 酒井先生がスマートフォンのBluetooth通信を利用して2022年に商店街の人流データを計測する取り組みを行った仙台市の制度は何ですか？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。宮崎義久先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2025年6月10日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

○○ポイント、××振興券など様々な運用をされることで知られている「地域通貨」。しかし、単なる貨幣価値としてだけではなく、地域の価値をつなぐメディア（媒体）としての「地域通貨」を提唱される宮﨑先生にお話を伺いました。

地域のつながりと経済活性化にグッドマネーを

日本でも身近になった地域通貨

小学校時代は天文少年でした。当時、西公園にあった仙台市天文台が主催する天文教室に通い詰め、理系の大学に進むつもりで勉強していたのです。しかし受験がうまく行かず浪人し、「文系だけど得意な数学を生かすことができそう」という安易な気持ちで経済学部に進みました。

目を開かれたのは、2 年次に受講した「世界経済論」です。この講義では発展途上国の貧困問題などをテーマとして取り上げ、「世界経済の諸問題は身の回りの社会課題とも複雑に絡み合って，グローバルかつローカルに論じられる」という考え方に強い印象と共感を覚え、担当教員であった矢野修一先生の研究室を志望しました。

当時、私が卒論のテーマに選んだのは「地域通貨の歴史的な意義に関する一考察」になります。円やドルといった国家がその通用力を認めた「法定通貨」とは違って、ある特定の地域やコミュニティ内で使用することができる通貨です。市民が自ら通貨を発行して流通させることで、互いに助け合ったり、地域経済を守ったりすることを目指します。歴史的に日本を含む世界各地に様々な地域通貨があることを知り、そのヴィジョンと可能性の大きさに魅せられました。

ゼミで学ぶことの楽しさを知り、大学院に進学された方や研究者になった先輩方と交流するうちに、「自分も研究者になりたい」と思いはじめました。矢野先生には「文系大学院に進んでも、30 歳を過ぎるまでは自分の稼ぎでご飯を食べていくことは難しい」と忠告されましたが、「自分はそもそも民間企業で働くのに向いていない」という自覚もあったのです（笑）。

北海道大学の大学院へ進学後、西部忠先生にご指導いただき、地域通貨の研究を続けました。しかし矢野先生の言葉どおり思い通りには研究は進まず苦戦続きで、博士号を取得して小樽商科大学に就職したのはちょうど 30 歳の時です。博士論文では米国の大恐慌期に発行された地域通貨を調査し、現代の日本の状況と比較して論じました。

法定通貨の円は硬貨や紙幣だけでなく、銀行預金や有価証券など様々な形をとります。地域通貨もまた、実に様々な形態があります。日本では江戸時代に「藩札」が流通していました。幕府ではなく各藩が発行し、その領内だけで通用させた紙幣です。現代では、国や自治体が発行する地域振興券やプレミアム商品券も、「その地域でだけお金のように使える」という意味では、広義の地域通貨と言うことができるかもしれません。しかしながら、その理念や目的は、本来の地域通貨とは大きく異

なるものとなっているのが現状です。

地域通貨は人をつなぎ地域経済をうるおす

地域通貨についての説明をここまでお読みになって、「全国でもインターネットでも使える企業発行のポイントとどこが違うのか」「たとえ少しお得だとしても、使える地域や期限が決まっているのは不便ではないか」「円などの法定通貨に替えることはできるのか」などの疑問を持たれたかもしれません。これがまた、地域通貨によって色々なのです。

実は法定通貨や企業ポイントにはない地域通貨ならではの特長とは、「便利さ」や「お得感」ではありません。地域通貨の本質的な機能は、「地域コミュニティの形成・維持」や「地域経済への寄与」にあるのです。

お金は人と人をつなぎますが、格差を生むなどして時には地域社会を分断もします。国内外からの観光客でにぎわっている地域も、実は域外から入ってきた以上のお金が域外へ流出したり、若い人材を大都市に奪われたりしています。持続可能な地域のあり方を考えるにあたっては、「人のつながり」と「域内経済循環」こそが鍵なのです。そしてこれらを支える機能こそが、法定通貨や企業ポイントにはない、地域通貨ならではの本質だと私は考えています。

神奈川県の旧藤野町は、2007 年に合併して相模原市緑区の一部になりました。その 2 年後、有志が集まって、藤野地区における住民同士のつながりと暮らしの安心感を高めるための「よろづ屋」という地域通貨の仕組みを始めます。1 萬（よろづ）が 1 円に相当しますが、貨幣も、カードも、デジタルのシステムもありません。参加メンバー同士が紙の通帳を持ち寄って、プラス・マイナスの数字と残高を手書きし、お互いにサインし合うのです。約 600 世帯、1,500 人ほどが利用していて、地域のパン屋、レストラン、ヨガ教室などの他、個人間でも作業を手伝ってもらったり、子どもを見てもらったりするのに使われています。移住してきた若い世代にも、「地域の人に氣兼ねなくお世話になれる」と好評だそうです。

ボランティアで始まった「よろづ屋」は、そもそも法定通貨とは無関係です。一方で岐阜県飛騨・高山地区を中心に流通するデジタル地域通貨「さるぼぼコイン」は、金融機関である飛騨信用組合が、地域活性化のため 2017 年に始めました。デジタルの仕組みが整っていて、条件付きながら法定通貨への「払い戻し」も可能です。市民の約 4 人に 1 人がアプリを利用していて、使える加盟店は、隣接する自治体も含めると、約 2,000 店。市役所の窓口での手数料、公共施設の利用料金、自動車の税金や固定資産税の納付書払いなどにも使えます。

生活と人生にグッドマネーを

私自身も最初の赴任先である北海道小樽市で、実際にデジタル地域通貨を運用する機会に恵まれました。2012 年からおよそ 2 年間にわたって行われた「TARCA（タルカ）」という電子地域通貨システムの社会実験で、アドバイザー兼事務局員を務めたのです。

当時の人口がおよそ 13 万人ほどだった小樽市は、観光地として人氣を集める一方、人口減少や地域経済の停滞という問題が顕著でした。その解決に地域通貨がどう寄与できるかが、実験と研究のテーマです。反省点も多いのですが、地域にとっても私にとっても貴重な経験になりました。

2016 年からは宮城県に戻り、仙台高等専門学校の名取キャンパスに勤務しました。2022 年、名取市から「デジタル地域通貨の導入を検討しているので協力してほしい」という依頼があり、運用が始まった 2024 年度からは、市のデジタル地域通貨利用促進委員会で委員長を務めています。市が発行する「なとりコイン」は去年の 8 月に始まったばかりで、展開はまだこれからです。地域商品券のように店舗で 1 度しか使えない仕組みですが、地域のコミュニティや経済の活性化に結びつくよう、私も力を尽くしていきたいと思っています。

地域通貨には、他にも「コミュニティ通貨」「エコマネー」などの呼び方がありますが、たとえば「グッドマネー（良貨）」という呼び方はいかがでしょう。単なる「便利さ・お得さ」を超えて、また「地域経済を回す仕組み」であることも超えて、私たちの生活と人生を豊かにするためのメディア（媒体）である、という意味が込められています。

「悪貨は良貨を駆逐する」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。16 世紀半ば、金融業者でイギリス国王の財政顧問だったグレシャムが、エリザベス女王に新しい貨幣の改鋳を進言した時の言葉です。これに対して 20 世紀のオーストリアの経済学者ハイエクは、人々が望ましいと考える貨幣を選択することで貨幣価値の安定性を図るという意味で「良貨が悪貨を駆逐する」と考え、「グッドマネー」とは何かという視点を世の中に提示しました。

大学院時代の恩師である西部先生は、ハイエクのこの言葉を援用して「デジタル - コミュニティ通貨を人々の生活と人生を豊かにするグッドマネーにする道を探ろう」と呼びかけておられます。2018 年に設立されたコンソーシアム「一般社団法人グッドマネーラボ（通称）」には、研究者だけでなく、デジタル地域通貨の運営に携わっている方や企業人も参集しており、私も研究員兼副事務局長を務めています。

地域通貨について考えることは、私たちの価値観について、あらためて考えることでもあります。お金はもちろん大切です。しかし家族をはじめとする近しい人々との関係、地域の人々との助け合える関係、そして世代を超えて地域に受け継がれてきた価値と未来に残すべき価値などは、法定通貨だけで計ることはできません。私は学ぶことが楽しく、学びこそが最高の娯楽だと思っています。皆さんにもぜひ地域通貨について学んでいただき、ご自分と地域にとってのグッドマネーについて考える機会を持っていただきたいと願っています。

（取材＝ 2025 年 3 月 6 日／宮城大学サテライトキャンパス
ミーティングスペースにて）

宮城大学　事業構想学群　准教授
専門＝コミュニティ経済・地域通貨論・進化経済学

宮﨑　義久 先生

《プロフィール》（みやざき・よしひさ）　1981 年宮城県生まれ。高崎経済大学経済学部卒業。北海道大学大学院 経済学研究科 博士後期課程修了。博士（経済学）。小樽商科大学商学部 学術研究員、仙台高等専門学校 助教、同准教授を経て、2023 年より現職。共著書に『北海道社会の課題とその解決』、『地域通貨によるコミュニティ・ドック』など。

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 宮崎先生が理想とする「地域通貨」の呼び方は？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。酒井正夫先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2025年6月10日 当日消印有効

詳細情報も

Web版はより多くの情報を
随時更新しています。

まなびのめ 検索

http://manabinome.com/

展示

第 109 回企画展「仙台の遺跡めぐり　仙台むかしのモノづくり」

4月25日(金)～7月21日(月)　9:00▶16:45　有料　申込不要

※入館は 16:15 まで、休館日：月曜日（祝日除く）、祝日の翌日、第 4 木曜日

場所　地底の森ミュージアム企画展示室

主催者　地底の森ミュージアム　問合先　TEL 022-246-9153

特別展「詩人・山村暮鳥展 ―雲もまた自分のようだ―」

4月26日(土)～6月29日(日)　9:00▶17:00　有料　申込不要

※入館は 16:30 まで、休館日：月曜日（5/5 を除く）、祝日の翌日、第 4 木曜日

場所　仙台文学館

主催者　仙台文学館　問合先　TEL 022-271-3020

企画展「はきものの民俗」

4月26日(土)～7月 6日(日)　9:00▶16:45　有料　申込不要

※入館は 16:15 まで、休館日：月曜日（祝日除く）、祝日の翌日、第 4 木曜日

場所　仙台市歴史民俗資料館

主催者　仙台市歴史民俗資料館　問合先　TEL 022-295-3956

GW 企画「縄文体験・体感 WEEK！」

5月 3日(土)～5月 6日(火)　9:30▶14:30　有料　申込不要

※ 5/5 のみ無料、10:00 ～ 14:00

場所　奥松島縄文村歴史資料館

主催者　奥松島縄文村歴史資料館　問合先　TEL 0225-88-3927

4 APR

第 114 回日本病理学会総会 市民公開企画「親子でびっくり病理の世界 ―液体窒素大実験」

4月19日(土)　10:30▶16:00　無料　要申込

場所　仙台国際センター展示棟／会議室 4　定員　288 組

主催者　一般社団法人日本病理学会　問合先　TEL 022-717-8048

記念講演会「江戸の町づくりと庶民のくらし」

4月19日(土)　13:30▶15:00　無料(要ﾁｹ)　要申込

講　師　杉山哲司氏（東京都江戸東京博物館学芸員）

場所　東北歴史博物館 3 階講堂　定員　280 名

主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

第 114 回日本病理学会総会：市民公開講座「膵臓がんを知ろう」

4月19日(土)　16:20▶17:40　無料　申込不要

講　師　古川徹氏（東北大学大学院医学系研究科病態病理学分野教授）他

場所　仙台国際センター展示棟／会議室 2　定員　160 名

主催者　一般社団法人日本病理学会　問合先　TEL 022-717-8048

せんだい文学塾 4 月講座

4月19日(土)　16:30▶18:30　有料　要申込

講　師　熊谷達也氏（直木賞作家）

場所　仙台文学館　定員　72 名

主催者　せんだい文学塾　問合先　sendaibungakujuku@gmail.com

アースデイ講演会「過去の地球環境変動と人類」

4月20日(日)　11:00▶12:30　無料　申込不要

講　師　井龍康文氏（仙台市天文台ブレインサポーター）

場所　仙台市天文台 加藤・小坂ホール　定員　50 名（先着）

主催者　仙台市天文台　問合先　TEL 022-391-1300

令和 7 年度　館長講座　第 1 回

4月26日(土)　13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　東北歴史博物館館長

場所　東北歴史博物館 3 階講堂　定員　280 名（先着）

主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

参加体験記

「学び」イベント参加体験記

■ 21 世紀減災社会シンポジウム
阪神・淡路大震災 30 年～「大震災の時代」へ継承すべきこと

講　師：室崎益輝氏、上田真由美氏、御厨貴氏、阪本真由美氏、門脇幸子氏、頼政良太氏、長沼隆之氏

開催日：令和 7 年 2 月 8 日（土）　13:30 ～ 17:00

場　所：神戸朝日ホール（オンライン参加）

主　催：朝日新聞社、ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

今年、1 月 17 日に阪神･淡路大震災（以後「大震災」と略す）から 30 年の節目を迎えました。このシンポジウムは毎年開催されており、Web 視聴もできます。今年は副題に示されたように今後予測される南海トラフ地震や東京直下型地震などの防災対策に対して教訓として伝え、継承すべきことについて議論されました。概要は朝日新聞の 2 月 15 日付朝刊に掲載されています。

基調講演は室崎益輝（神戸大名誉教授）氏が大震災後の 30 年を振り返り、復興や災害対策等について講演され、30 年の歴史の重みと深みのある内容でした。

過去の災害からの教訓や復旧復興の成果などを踏まえ、災害救助法、災害復興法や災害対策基本法などを見直し、災害関連法制度も時代の変化に合わせて抜本的な改正を図るべきとしています。

神戸では短期的な課題の解決のため、被災者の生活再建を優先したが、理想的な社会を目標に長期的な課題について検討していく必要性を強調されています。人間の復興、高齢社会への対応が重要な課題になります。

大震災の経験や教訓が能登半島地震などの被災地に伝わっていないことにもふれ、大震災被災者の伝え方に課題があったと反省されています。成功体験を押しつける一方で失敗体験等を伝えていない、各被災地域の特殊性への配慮に欠けていることなどです。これらの点はボランティア活動にも同様のことがいえます。ボランティアの個人的体験が共有化されず、自己の経験を絶対視し、被災地域の状況に合せて柔軟な対応をする姿勢に欠けていたのではないかと議論されていました。

パネルディスカッションでは御厨氏の巧みな司会で 4 人のパネラーの意見を引き出していきます。

各パネラーの話題提供から始まります。阪本真由美氏（兵庫県立大教授）は大震災の教訓を①「大地震」は起きないという思い込み、②地方分権型災害対応の限界、③「支援」を活用するマネジメントの不在の 3 項目に総括していました。氏の近著「阪神・淡路大震災から私たちは何を学んだか　被災者支援の 30 年と未来の防災」には詳しく記されています。外国での活動経験もあり、ボランティア活動も行いながら災害支援研究を進めている実践的な防災研究者です。

議論に入ると、御厨氏は次のような問いを発してパネラーの意見を深めていきます。

①能登半島地震に（大震災の教訓など）どう活かされたのか？
②30 年という年月を考慮すると人材の世代交代の時期になるが、適切に交代するためにはどうすべきか？
③災害体験をどう伝えていくか？
④南海トラフ地震への備えをどうするか？

今回の議論から対応すべき方向性は示されているように思えます。ボランティア活動、災害関連死、被災者支援制度、心の復興など大地震後から始まったとされる多くの災害対策があります。災害の経験や教訓をいかに伝えていくか、昔からの課題をどう克服していくか、さらには災害伝承を継承していくためのスムーズな世代交代の課題もあります。

30 年後の今日、兵庫県では住宅の耐震化率がそれほど伸びていないのに対して、高齢化率は 15%から 29%へ増え、一人暮らしの高齢者数、空き家率も増加しています。こうした傾向は日本全体でも同様といえます。能登半島地震は高齢社会への災害、しかも震災後の夏の洪水災害、冬の雪害も重なる複合災害となっています。

東日本大震災前、宮城県では予想されていた宮城県沖地震対策として県民への周知や準備を重ねていました。が、自然は衝撃的で手強いもので、未曾有の地震災害となりました。防災事業や災害対応などを職務としていた経験はあるものの、数年後に後期高齢者となる我が身の問題としても、被災者支援について今回の議論を参考に考えてみたいと思います。

（仙台市　島田昭一）

「まなびのめ」配色法：襲色目（かさねのいろめ）
第 68 号・春／「桃」（momo）

読者の声

Voice Park

読者と編集部のキャッチボール

第 67 号　シリーズ「東日本大震災」【14】―氣候変動―

先生方のインタビュー記事を非常に興味深く拝読いたしました。県内の先生方の、将来につながるような研究をこれからもこのようにご紹介いただけますと嬉しいです。

（柴田郡川崎町・43 歳）

編：県内の大学には、非常に魅力的な研究を行っている研究者がたくさんいらっしゃいます。地域に根ざしながら、先端的な研究を推進し続けているその姿勢は、非常に誇らしいものです。

大学 1 年の頃に、高橋先生の講義を受けさせていただき、京都での思い出や先生の大学時代のエピソードトークがとても面白く、毎回大学に行くのが楽しみになっていたので、今回の京都の夏の寝苦しさのエピソードもクスッと笑えて懐かしく感じました。またどこかでお会いできたらなと思いました。

（仙台市若林区・22 歳）

編：素敵なエピソードをご共有くださりありがとうございます。「まなびのめ」では、研究者の方々の人間味あふれる魅力もお伝えしていきたいと願っております。

知らないことを知るのが大好きです。本だと自分の興味の範囲でしか知識を得ることができませんが、まなびのめは、自分の興味範囲を超えた知識を与えてくれるのでワクワクします。東日本大震災で決壊した藤沼ダムの話を初めて知り衝撃でした。そんなことはないだろうと思ったりせず、こんな可能性もあると考えていれば防げたかもしれません。つくづく知識は大切だと思いました。次号も楽しみにしています。

（仙台市泉区・43 歳）

編：知らないことを知る喜びこそが、「まなび」の醍醐味ですね。引き続き、ワクワクしていただけるような「まなび」の情報を届けられるよう精進してまいります。次号もお楽しみに！

自宅にいながら地域の大学の専門家の話が聞ける貴重な機会だと思いました。専門的な話を、一般の人にも分かりやすく説明されている点がとても良かったです。そして、ページ数が丁度良く、飽きずに一氣に読めました。毎号入手したいのですが、既に無くなっていることもあり、関心の高さが伺えます。今後も楽しみにしています。

（仙台市若林区・33 歳）

編：嬉しい感想をありがとうございます。次回から設置部数を増やすよう手配したいと思います。また、定期発送をご希望いただければ、毎号送付いたしますので、ご遠慮なくお知らせください。

その他のお便りと編集部からのコメントは Web 版でご覧いただけます。

これからの主な「学び」イベント

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/

予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

5 MAY

憲法記念日講演会「共に生きる社会のために―最近の憲法裁判から」

5月 3日(土)　14:00▶16:00　有料　要申込

講　師　尾形健氏（学習院大学専門職大学院法務研究科教授）

場所　吉野作造記念館

主催者　吉野作造記念館　問合先　TEL 0229-23-7100

前期基礎講座　第 2 回「吉野作造の文章を読んでみよう」

5月10日(土)　14:00▶16:00　無料　要申込

講　師　氏家仁氏（吉野作造記念館館長）

場所　吉野作造記念館　定員　30 名

主催者　吉野作造記念館　問合先　TEL 0229-23-7100

介護講座「ターミナルケアを学ぶ」

5月15日(木)　13:30▶15:30　無料　要申込

講　師　小関ゆみ氏（看護師）　※申込開始：4/7（月）9：00

場所　仙台市シルバーセンター臨時事務所 研修室　定員　50 名（先着）

主催者　（公財）仙台市健康福祉事業団　問合先　TEL 022-215-3711

第 28 回『楽になりたい子育て講座』（全 6 回）

5月17日･24日･31日･6月7日･21日･28日(土)　10:00▶11:30　有料　要申込

講　師　キャップネット・みやぎ トレーナー　※定員になり次第締切

場所　仙台市市民活動サポートセンター　定員　6 名

主催者　キャップネット・みやぎ　問合先　TEL 022-265-8867

テーマ別介護講座「高齢者の健康を支える食事～低栄養予防について～」

5月20日(火)　13:30▶15:30　無料　要申込

※申込開始：4/7（月）9：00

講　師　濟渡久美氏（宮城学院女子大学生活科学部准教授）

場所　仙台市シルバーセンター臨時事務所 研修室　定員　50 名（先着）

主催者　（公財）仙台市健康福祉事業団　問合先　TEL 022-215-3711

令和 7 年度　館長講座　第 2 回

5月24日(土)　13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　東北歴史博物館館長

場所　東北歴史博物館 3 階講堂　定員　280 名（先着）

主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

せんだい文学塾 5 月講座

5月24日(土)　16:30▶18:30　有料　要申込

講　師　堂場瞬一氏（小説すばる新人賞作家）

場所　仙台文学館　定員　72 名

主催者　せんだい文学塾　問合先　sendaibungakujuku@gmail.com

ミニ講座①「多様なはきものと仙台のくらし」

5月25日(日)　14:00▶15:00　無料(要ﾁｹ)　申込不要

講　師　仙台市歴史民俗資料館学芸員

場所　仙台市歴史民俗資料館

主催者　仙台市歴史民俗資料館　問合先　TEL 022-295-3956

展示関連企画：ワケルくんバスで行く、おとなの工場見学会

5月30日(金)　9:30▶12:00　無料　要申込

※申込開始：5/6（火）10：00

場所　せんだい 3.11 メモリアル交流館　定員　20 名（先着）

主催者　せんだい 3.11 メモリアル交流館　問合先　TEL 022-390-9022

2025 年度東北大学艮陵同窓会 特別講演会「地球の住民」

5月31日(土)　15:30▶16:30　無料　申込不要

講　師　ヤマザキマリ氏（漫画家・文筆家・画家）

場所　江陽グランドホテル 鳳凰の間　定員　300 名（先着）

主催者　東北大学艮陵同窓会　問合先　gonryo-alumni@g-mail.tohoku-university.jp